

広報



九州

平成21年12月10日

(2009年)

No 1656

九州森林管理局

〒860-0081

熊本市京町本丁2-7

IP電話 050-3160-6600(代表)

<http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/>



一般の部17課題・高校生の部5課題を発表＝九州森林管理局

同発表大会は、九州林政連絡協議会が主催し昨年から「九州森林(もり)の日」の一環として、森林・林業関係者などが、日頃取り組んでいる林業技術や流域管理などの成果を発表し、技術の交流や情報交換を行い流域の森林・林業の活性化を図る目的で開いているもので、今回で

中、私たちは『九州から林業をどう再生するか』を課題に、民・国が連携して取り組み一定の成果を上げつつあります。本日の発表大会を契機に、九州の林業がさらに発展するよう期待しています」とあいさつ。

その後、高校生5課題、国有林5課題、民有林10課題、民・国共同2課題を2日間にわたり発表しました。

特に今年は、高校の部において佐賀県立伊万里農林高校が初参加。また、民有林の部においては、業界から2社が経営現場第一線の取組事例を発表するなど、幅広い分野での発表が行われました。

2日目は、特別講演が行われ、宮崎大学農学部地域農業システム科の藤掛一郎教授が「九州林

森林の流域管理システム推進発表会

研究成果発表

九州・沖縄から200人が参加

11月11・12日の両日、当局大会議室において平成21年度一森林の流域管理システム推進発表大会が開かれ、九州・沖縄各県の森林・林業関係者や当局・署の職員に熊本県や佐賀県の森林・林業を学ぶ高校生など200人が参加。地域や職場、学校で取り組んだ森林・林業技術の開発や普及事例など22課題(一般の部17課題、高校の部5課題)を発表し、優秀な成績を収めた一般の部6課題と高校の部2課題が表彰されました。(2面に関連記事)

15回目を迎えます。

はじめに、同協議会会長の沖修司九州森林管理局長が「九州の森林とりわけ人工林は、大変充実してきており、全国的にもリーダー的存在になってきています。こうした

業の成長と展望」と題して、また、熊本大学教育学部技術科教育分の野田口浩継准教授が「熊本県における木育推進の現状と課題」と題してそれぞれ特別講演を行いました。

最後に、審査委員長の独立行政法人森林総合研究所九州支所中村松三所長が、講評を行った後、九州林政連絡協議会長賞(最優秀賞1課題、優秀賞4課題)日本森林技術協会理事長賞1課題が表彰され、2日間の発表大会を終了しました。

(担当Ⅱ指導普及課)



熊本大学教育学部
技術科教育分野
田口 浩継 准教授



宮崎大学農学部
地域農業システム科
藤掛 一郎 教授

6課題と校の部2課題表彰 森林の流域管理 システム推進発表会

平成21年度森林の流域管理システム推進発表大会の各賞入賞課題と発表者は次のとおりです。

九州林政連絡協議会長賞

最優秀賞

○鹿児島県川薩地区におけるたけのこの生産振興について
生産者の高齢化等に対応した取組
鹿児島県北薩地域振興局

(上) 九州林政連絡協議会会長賞・最優秀賞受賞の前迫俊一さん
(下) 日本林業技術協会理事長賞の釜稔さんと桑俣佳昇さん

優秀賞

○崩れにくい低コスト路網の取組について
熊本南部森林管理署

農林水産部林務課
前迫 俊一

木倉 浩二
草野 誠

○低コスト路網における列状間伐について
大隅素材生産事業協同組合

九州森林管理局長賞
九州林政連絡協議会会長賞・最優秀賞受賞の前迫俊一さん
(下) 日本林業技術協会理事長賞の釜稔さんと桑俣佳昇さん



山生産業株式会社

吉重 英生

○南の小さな島での木材の安定的収穫への取り組み
沖縄県八重山農林水産振興センター

農林水産整備課
眞鍋 智子

○伐採搬出ガイドラインの策定と普及
NPO法人ひむか維森の会

松岡 明彦

日本林業技術協会理事長賞

○コスト1/2を目指した誘導伐システム(帯状伐採による複層林施業)の開発
森林技術センター

釜 稔
桑俣 佳昇

高校生の部

九州森林管理局長賞

○世界に誇る阿蘇のカルデラ！
眠れる阿蘇の魅力発掘をめざして「阿蘇の湧水を利用したワサビ栽培の研究」
熊本県立阿蘇清峰高等学校
林業・農業土木科

深山 卓実

阿部 拓海

荒牧 健司

牧野 俊暉

○貴重な塩性植物を守ろう
塩性植物の保護活動と地域



九州森林管理局長賞

(上) 熊本県立阿蘇清峰高等学校

(下) 佐賀県立伊万里農林高等学校

の環境

佐賀県立伊万里農林高等学校
校森林工学科

岡本 竣

前田 将史

小学5年生にお届け講座

【宮崎北部森林管理署】森林

環境教育の取り組みとして、延岡市立緑ヶ丘小学校5年生70人を対象に「お届け講座」を実施。森林の役割や働き、間伐の必要性などを学習しました。その後、近くの海岸林まで移動し、保安林の役割や樹木の名前、特徴について学習しました。緑ヶ丘小学校では、校庭の樹木名を覚えようと、昨年度から樹名板を見学たちで設置しています。森林・自然環境に対し積極的に学習



樹木の特徴について学ぶ児童＝宮崎北部

しようとする子供たちの姿が印象的でした。

(担当Ⅱ指導普及課)

黒川 亮
橋口 寛史
奈良崎圭則
脇山 雄気

久住山避難小屋が完成

【大分森林管理署】くじゅう連山最高峰の「中岳」直下にある避難小屋（昭和6年建立）は、屋根が崩落する危険があるため



避難小屋が完成し、
神事に参列の皆さん=大分

平成18年から立入禁止としていました。各方面からの要請で、今年度補修工事を実施。この度完成を記念して環境省や竹田市など関係者出席のもと落成式を行いました。地元テレビ局や新聞社も取材に駆けつける中、神事を実施。最後に登山者を代表して山岳連盟会長の万歳三唱で式典を終了しました。

「九州森林の日」に植樹祭

【鹿児島森林管理署】九州森林の日「美しい森林づくりinかごしま」の植樹祭を鹿児島県九州森林管理局、当署の共催で実施。約400人が参加しまし



植樹祭に400人が参加=鹿児島

た。来賓による記念植樹の後、参加者は職員の指導を受けながら植樹を行いました。終了後は、豚汁とおにぎりが振る舞われ楽しい1日となりました。

70人が海岸林を清掃

【西都児湯森林管理署】平成17年度に締結した「高鍋・新富海岸林等森林整備協定」の一環行



海岸林清掃に汗する参加者=西都児湯

事として、高鍋町蚊口浦国有林で、地域住民など約70人が参加し海岸林の一斉清掃を実施。一帯の海岸林は、潮害防備などの保安林に指定されており、地域住民の癒しの場となるなど多様な機能を発揮しています。集めたゴミは軽トラック2台に登り、参加者からは、利用者のマナーの向上を望む声が聞かれました。

モミの木を提供

【大分西部森林管理署】木の良さを知ってもらおうと20年程前から市内の幼稚園にクリスマス用のモミの木を提供しています。今年は3つの幼稚園に提供。フレール三芳幼稚園では、園児らが手作りの帽子をかぶり、届けたモミの木に飾り付けを行いました。「すてきなモミの木をありがとう」と園児から感謝状とクリスマスソングの歌のプレゼントがありました。



児童から感謝状がプレゼント=大分西部

森を学ぶ・森に学ぶ… 首里城古事の森づくりを通して

朝に夕にヤンバルクイナの鳴き声が飛び交い、海・山・川の自然に抱かれた本校は、児童数13人の小規模・複式のへき地校です。

子ども達は、これまで環境教育の一環としてヤンバルクイナの保護活動に取り組み、好物のミミズを育てているうちに、ミミズに興味を持ち

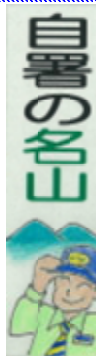
「森の落ち葉や枯れ枝を栄養たっぷりの土に変え、そのお陰で森の木たちが育っている」ということを学びました。そして、東洋のガラパゴスといわれ希少生物が生息するやんばるの森の豊かさも知りま



沖縄県立国頭村立
安田小学校 校長
辺土名清子さん

メットに軍手、長靴の出で立ちで苗を植える子ども達の表情は生き生きし、「自分達がやっている植樹活動は、森をつくり、毎日使っている水を貯え、生き物を育て、将来、首里城の修復に使われるんだ」と、目的意識をしっかりとっており自負心を見た思いでした。

環境教育は、体験が最も大切です。今、子ども達はミミズの飼育体験を通して森の木が育ち生き物たちが生息することを知り、植樹体験を通して木の文化と人々の暮らし、そして、森と人・生き物のつながりを考えつつ「木を育てる」「森をつくる」活動を実践中です。今後とも、「持続可能な社会を創造する」一人として、安田っ子達が主体的に行動するとともに、活動の輪が大きく広がっていくことを願っています。



自署の名山

宮崎北部森林管理署
高千穂森林事務所

首席森林官 池田 稔

当署管内は、宮崎県北部に位置し、紹介する白岩山は九州中央山地遺伝資源保存林および国定公園内の一角にあります。

山頂は2億6千万年前の珊瑚が固まった石灰岩で、太平洋プレートにより押し上げられ出来たものと言われています。

登山コースは、白岩山を経て宮崎県椎葉村に至る尾根沿いの古道で「霧立越」とも、又牛馬の背に生活物資を輸送したことから「駄賃付けの道」とも呼ば



白岩山頂

白岩山(1646m) 「次代に引き継ごう霧立越」

れています。古くは平家の落人が椎葉村に逃れる為に通ったのではないかと、又西南の役で薩摩軍が人吉に逃れる際にこの峠道を通ったと言われています。

登山道入り口から平成19年度600mをウッドチップ舗装としたことから歩き易くなり、白岩山までの所要時間は1時間弱で行くことが出来ます。

付近一帯は、主にブナ・ミズナラの落葉広葉樹林となっています。春頃はツクシコバノミツバツジ・ベニドウダンツツジ、シャクナゲなどが見られます。

草本類ではヤマシャクヤク



（上）シャクナゲ
（下）ヤマシャクヤク

ク・ワチガイソウ・タニギキョウ。夏頃はヤマホトトギス・ウチョウラン・ソバナなど四季折々の可憐な花が咲き乱れます。

近年、鹿による被害が深刻になっていくことから、山頂周辺に鹿ネットを設置しています。又登山道入口近くにもキレンゲショウマ群生地に鹿ネットによる保護を図っています。

最後に、この霧立越の自然を次の世代に残して行くことが、私たちの使命であり、今後も職員一丸となって取り組んでいきたいと思っています。

五ヶ瀬スキー場でお届け講座

【宮崎北部森林管理署】五ヶ瀬町内4小学校の5年生を対象に、向坂山国有林の五ヶ瀬スキー場周辺で、森林・林業についての「お届け講座」を実施。現地は標高1600mもあり、少々寒い中での講座でしたが、保育間伐や森の音体験、野鳥観察、自然探索などを行いました。

間伐体験は、初めてノコギリを手にする児童が大半で、息を切らしながら力一杯ノコギリを引き、木が倒れると一堂に「ワー」という大歓声がわき上がっていました。また、自然探索では木の葉やドングリなど拾ったり、ミズメの木の匂いに驚いたりするなど、疲れた表情の中にも、楽しい一日でもあったようでした。



自然探索をする児童ら＝宮崎北部

安全衛生協議会を開催

【鹿児島森林管理署】鹿児島・北薩・屋久島各署と、鹿児島・加治木両労働基準監督署による労働安全衛生確保対策連絡協議会を開催。18人が参加しました。

参加者は、桜島民有林直轄治山の作業現場の視察と安全パトロールを実施した後、協議会を開催。協議会ではまず各森林管理署から請負事業の安全の取り組みなどを説明。続いて労働基準監督署より労働災害状況や安全パトロールの点検結果について説明。また、災害防止には発注者の協力が不可欠であり協力をお願いする旨の話を受けました。最後に、活発な意見交換を行い参加者一同労働災害未然防止に向けた取り組みについて再確認しました。



協議会で意見交換する参加者＝鹿児島

国山林野モニター ブロック会議

九州各地から9人参加 治山事業への理解深める

11月14日、長崎森林管理署管内島原市において、九州各地の国山林モニター9人の参加の下、国山林モニター長崎ブロック会議を開きました。

晴天にも恵まれ、午前中は長崎署管内による、雲仙・普賢岳噴火災害跡地の治山工事実施状況の視察を行い、参加者は規模の大きな治山事業に驚きの声を上げていました。

午後からは最寄りの公民館において、堂本治山課長による九州局管内の治山事業の取り組みを紹介した後、効果的な治山事



ブロック会議に参加のモニター＝長崎県島原市

業のPR活動などについてモニター同士による意見交換会を行いました。参加者からは、「今まで治山事業という名前には聞いたことがあったが内容についてはよく知らなかったので理解が深まった。山の中で行っている事業なので国民が目にする機会が無い施工後に子どもたちを招待して植樹を行うなど、また来々となるようなPRを行ってはどうか。国山林モニターが率先してPRしていくべきではないか」など、活発な意見が出されました。

今回頂いた意見やアンケート結果については、今後の治山事業の取り組みに生かして参ります。

(担当Ⅱ企画調整室)

森林教室で丸太切り体験

【佐賀森林管理署】10月8日の「木の日」に神埼市立脊振小学校で5、6年生を対象にNPO法人森林監視隊と共同で森林教室を行いました。当日は、あいにくの雨模様で体育館で実施。児童らは、森林の働き、森林の

現状や問題点などについて学んだ後、5班に分かれ、スギとヒノキの丸太切りを体験しました。木の堅さを比べたり、丸太を香ったり、顔にすりつけて感触を感じとったりと児童らの旺盛な好奇心には驚かされた1日となりました。



丸太切りを体験する児童＝佐賀

高山植物の盗採防止

【鹿児島森林管理署】本格的な紅葉が始まり国立公園の霧島連山も入林者が多くなる時期となった11月13日、「霧島連山高山植物盗採防止連絡協議会」による盗採防止一斉検問を行いました。霧島高原に通ずる4ルートで検問を実施。約150台を点検しました。職員手作りのカードを配り、「自然を大切にしてください」と呼びかけ高山植物な

どの盗採防止への理解を求めました。



盗採防止を呼びかける職員ら＝鹿児島

国山林モニターが現地視察

【大分森林管理署】大分県内の国山林モニターに国山林の理解を深めていただくために、由布市の国山林で現地視察会を開



間伐現場を視察するモニター＝大分

きました。当日は10人が参加し、くじゅう風景林、活用型間伐の作業現場、由布岳の治山現場を視察しました。参加者は、当署職員の説明を聞きながら、紅葉の始まった風景林の散策を楽しんだり、間伐現場のウイッチによる集材、プロセッサによる造材作業を見学。また、治山現場では由布岳の崩壊の様子や治山ダム群に驚いていました。

九州森林の日イベント

【屋久島森林管理署】「九州森林の日」のイベントとして、鍋山国山林内にあるヤクタネゴヨウ見本林・採取林の下刈り作業を行いました。当日はボランティアなど、総勢21人が参加。参加者は作業後の林地を見渡し、歓声をあげていました。



下刈り作業に汗する参加者＝屋久島

民・国連携の取組を、具体的にどう進めるか！ 地域の森林・林業の活性化等に向けて

10月29～30日、九州森林管理局において、各署の流域管理調整官等、各県の流域管理担当官、流域森林・林業活性化センターの事務局長などが出席し、「九州流域管理システム推進会議」（旧 流域管理システムプロック会議）を開きました。

第1日目は、①計画部長による「九州から始まる日本林業の再生」などの説明後、②本庁計画課・経営企画課流域管理担当官による「森林の流域管理システムの推進」「民国が連携した流域管理システムの展開」、③

署流域管理調整官等による「各県における森林施策等に係る民・国連携の取組事例の紹介（発表）」、④県の流域管理担当官及び流域森林・林業活性化センターの事務局長などによる「各県における流域管理に関する取組事例の紹介（発表）」についての意見交換などを行いました。

第2日目は、①局販売課販売係長による「国有林における安定供給システム販売の取組」についての説明後、②署流域管理調整官等会議出席者により「民・国連携の取組を、具体的にどう進めるか」というテーマについて、県別の討議および意見発表などを行いました。

特に、今回の会議では、『民・国連携』をキーワードに、これまでの民・国連携の取組を踏まえ、さらに各県における具体的な取組をどう展開するかということについて、活発な意見交換がなされました。今後、各県における民・国連携の取組の一層の展開が期待されます。



説明を行う計画課長＝九州森林管理局

（担当＝計画課）

20年前にタイムスリップ

【宮崎森林管理署】綾町と当署が、尾谷国有林でタイムカプセル開筒セレモニー式典を共同開催。カプセルは、1988年3月に旧綾営林署の植樹祭記念で、当時の綾小学校4年生以上355人分の作文など壺に入れ埋設したものです。当日は、当時の綾営林署長や児童、綾町長など関係者総勢30人が参加し、カプセルの壺を掘り起こし開筒。残念ながら壺の中には水が入っており、作文や写真など保存状態は良くありませんでしたが、慎重に取り出した絵や作文などを眺め20年前にタイムスリップし、懐かしい思い出話に花が咲きました。また、植栽したケヤ



タイムカプセルを開筒し記念撮影＝宮崎

キ、サクラも立派に生長し、大変感謝していました。

広木小・体験森林教室を開催

【鹿児島森林管理署】鹿児島市立広木小学校5年生116人を対象に、指宿スカイライン沿いの福岡国有林内で体験型の森林教室を行いました。当日は素晴らしい秋晴れの下、児童らは間伐や枝打ち、丸太切りを12班に分かれ体験。「どのような仕事をしているの。仕事をしていて素晴らしいと感じる時は？」などの質問があるなど児童らが森林・林業に興味をもった森林教室となりました。この模様は鹿児島読売テレビの夕方の番組で放映され、国有林の取り組みが紹介されました。



間伐を体験する児童＝鹿児島

ロータリークラブ講演依頼

【宮崎北部森林管理署】延岡中央ロータリークラブから講演依頼があり、「九州から始まる日本林業の再生と美しい森林について」と題して、中原署長が講演を行いました。当日は延岡市内からクラブ会員約60人が参加する中、九州の林業が置かれている現状などについて、パワーポイントや資料を使って講演を行いました。また、森林・林業の活性化のお手伝いのひとつとして、九州間伐紙の使用があることも紹介。クラブ会員は、九州の置かれている森林・林業の現状について、認識を深めた1日となりました。



九州の林業について学ぶ会員さん＝宮崎北部